

7

北朝鮮

高句麗古墳群と江西大墓

高句麗古墳群は、2004年に中国東北部に所在する高句麗前期の遺跡とともに世界遺産に登録された、朝鮮民主主義人民共和国に所在する63基の古墳群です。

高句麗古墳群のうち、壁画が描かれているものは16基で、それらの描かれた年代は4世紀末～7世紀初め頃とされています。また壁画が描かれている下地とその主題は、時代の推移とともに漆喰に人物や風俗を描いたものから、花崗岩に直接描かれた四神図へと移り変わり、墓室の構造も実際に生活した部屋を模したような回廊を伴う複雑なものから、羨道（玄室に通じる道）と玄室だけの単室墓へと変化していきました。特に四神図は、高句麗古墳壁画を一望することで数百年という歳月をかけて完成され、海を渡り、日本のキトラ古墳や高松塚古墳に影響を与えたことが推察されます。

江西大墓はこれら高句麗古墳群の中の1基で、羨道と玄室だけの単室墓です。花崗岩に直接四神図が描かれ、高句麗古墳群の中でも最晩年のものと考えられており、その壁画の表現は非常に伸びやかで力強い筆致で描かれ、高句麗壁画の四神図の中でも最高傑作といえます。

第7章では、復元された江西大墓の玄室は、壁に掛けられた壁「画」ではなく、実際に玄室内に入って鑑賞いただきます。限られた条件でしか見ることのできない古墳内部を再現し、現地以外では味わうことのできない臨場感と迫力を体感ください。



高句麗古墳群